

第3節

「次代を育む文化・教育環境の創造」

すべての市民が生涯にわたって主体的に文化、芸術、スポーツなどを学習できるよう環境を整備し、国際的な広い視野と平和を愛する心が生まれ、郷土に誇りと愛着がもてるまちづくりを進めます。

また、次代の担い手である子どもたちが、個性と創造性を備えた自立した人間として成長できるよう、家庭や地域社会とともに子どもたちを育てていきます。

～松戸市基本構想 施策の大綱～

政 策 8

～子どもたちが自らの将来の目標を持ち、

その実現に必要な知識や経験を得られるようにします～

後期基本計画における「めざそう値」等一覧

【めざしたい将来像】

子どもたちの社会での自立のために、家庭、学校、地域の連携のもと、地域の人々の力を活かし、地域を体験の場とするなどして、他人を思いやれる人間として成長できる真の生きる力を引き出す教育を実現します。

| 指 標 | | 21年度 | 22年度 | 25年度 | 27年度 現状値 | 28年度 (注1) | 32年度 (注2) |
|-------------------------|---------------|--------|-----------------|-----------------|-----------------|--------------|--------------|
| 目標をもって学校生活をしている児童生徒の割合 | めざそう値 (目標) | — | 65.0% | 74.2% | — | 77.8% | 75% (※) |
| | 実績値 | 73.7% | 74.5% | 78.3% | 79.2% | | |
| 授業が楽しいと感じている児童生徒の割合 | めざそう値 (目標) | — | — | 61.4% | — | 68.1% | 65% (※) |
| | 実績値 | 59.3% | 63.5% | 70.2% | 70.1% | | |
| 学校での「心の豊かさ」を育む体験活動の実施回数 | めざそう値 (目標) | — | — | 1,930回 | — | 1,975回 | 2,000回 |
| | 実績値 | 1,887回 | 1,887回 (H21) | 1,940回 (H24) | 1,871回 (H26) | | |

(注1)平成28年度のめざそう値は、第5次実施計画でめざす目標値です。めざそう値(28年度)設定の考え方は、第5次実施計画に設定した「めざそう値」の指標解説によります。

(注2)平成32年度のめざそう値は、後期基本計画書に記載しているめざそう値を記入しております。その中で“(※)”の表記のあるものについては、第6次実施計画策定時に平成27年度の現状値などを踏まえ見直します。

政策8

子どもたちが自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにします

1.基礎基本を習得します

1. 現況と課題

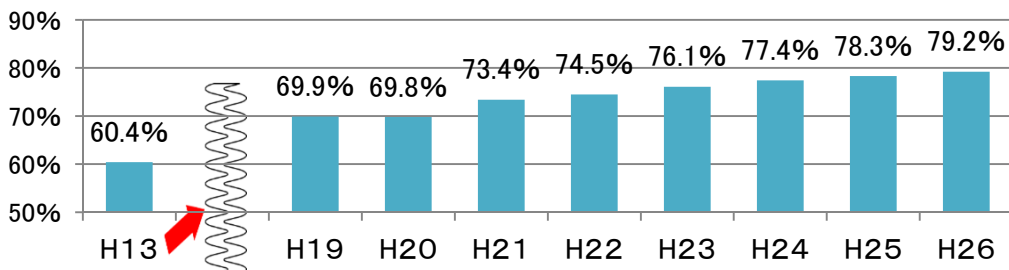
学校教育は生涯学習の基礎となることから、とりわけ小中学校で「4Rsを身につけさせる」ことと共に、「生涯にわたっての生き甲斐ある生活を構築しようとする積極的な姿勢、実現するための力を身につけさせる」ことが重要です。「児童生徒の学校生活に関する調査」から、「目標を持って学校生活をしている児童生徒の割合」は平成13年度60.4%が、平成26年度79.2%に上昇しています。今後も児童生徒が基礎基本となる学力を身につけ、それぞれの個性を発揮し、能力を伸ばし、楽しい学校生活を送ることができるよう、教職員による授業内容の充実や教職員の資質及び能力の向上が求められています。

また、開かれた学校づくりを推進するために、学校は教育活動その他学校運営状況等について、その評価を工夫するとともに、その結果を公表することが必要です。さらに、「特別支援教育」の推進も求められています。

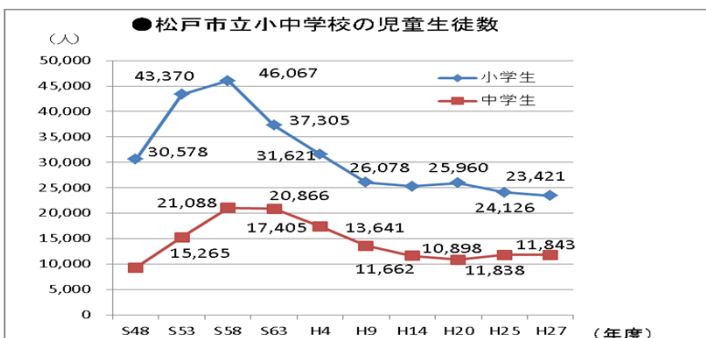
【特筆すべきニーズの変化】

- ① 生きる力の基盤となる児童生徒の学力向上が求められています（ニーズの増）
- ② 保護者や地域住民から学校の情報提供が求められています（ニーズの増）
- ③ 自ら学校を選択できることが求められています（ニーズの増）

目標を持って学校生活をしている児童生徒の割合



出典「児童生徒の学校生活に関する調査」学校教育部



出典 学務課資料

●国際的に見た我が国の成績

| | 読解力 | 数学的リテラシー | 科学的リテラシー |
|-------|----------|----------|----------|
| 平成12年 | 32か国中8位 | 32か国中1位 | 32か国中2位 |
| 平成15年 | 41か国中14位 | 41か国中6位 | 41か国中2位 |
| 平成18年 | 57か国中15位 | 57か国中10位 | 57か国中5位 |
| 平成21年 | 65か国中8位 | 65か国中9位 | 65か国中5位 |
| 平成24年 | 65か国中4位 | 65か国中7位 | 65か国中4位 |

出典「OECD生徒の学習到達度調査」

●平成27年度全国学力・学習状況調査結果

- ・本市の平均正答率、学力層等は、全国と比較して同程度である。
- ・国語、算数数学ともに、基礎基本の学力と応用力の相関関係が強い。
- ・小学校では、「選択式」の問題形式、「書くこと」の領域に課題がある。
- ・基本的な生活習慣と家庭学習が定着している子ども、発表が得意で様々な解き方を考える子ども、自尊意識が高い子どもは学力が定着している。

出典 松戸市教育委員会ホームページ「平成27年度全国学力・学習状況調査」結果

※用語解説 4Rs = 読みreading・書きwriting・計算arithmetic・責任responsibility

2. 施策の展開方向

児童生徒の基礎基本の定着と特色ある学校づくりのために、スタッフ派遣を行い、学校の創意ある経営プランと自律的運営を支援していきます。

基礎基本の習得ができるよう全教科のバランスのとれた効果的な学習プログラムにより進めます。特に、英語学習については、小学校1年生から中学校3年生まで、一貫した学習プログラムの研究開発を進めていきます。

3. 施策を推進していく上での課題

必要な人員の安定した確保による特色ある学校づくりの推進や、小中学校の円滑な接続に向け言語活用科の充実を図るなど学習環境のより一層の整備を進める必要があります。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

- ① 教育課程特例校として文部科学省より指定を受け、言語活用科を推進しています（強み）
- ② 学校づくりを支援する松戸市独自のスタッフ派遣制度があります（強み）
- ③ 松戸市独自の英語ICT教材を活用しています（強み）
- ④ 学校経営を評価して学校を選択できる制度があります（強み）
- ⑤ さまざまなニーズに対応する特別支援学級があります（強み）

●学校選択制度を受け入れている保護者の割合

平成16年度調査（選択制開始年度） %

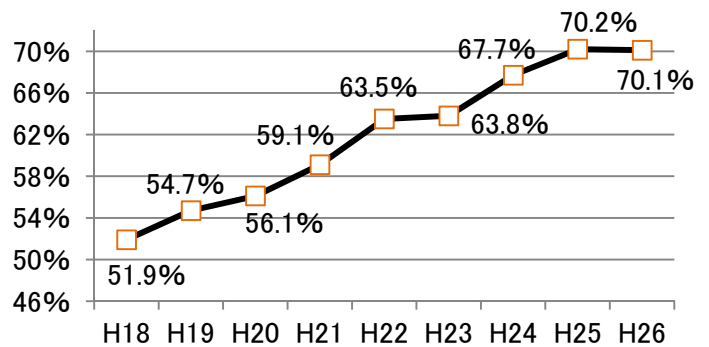
| | 小学校 | 中学校 | 全体 |
|------|------|------|------|
| よい | 87.3 | 83.2 | 85.2 |
| よくない | 12.7 | 16.8 | 14.8 |

平成27年度調査 %

| | 小学校 | 中学校 | 全体 |
|------|------|------|------|
| よい | 92.3 | 91.9 | 92.1 |
| よくない | 7.7 | 8.1 | 7.9 |

出典 学校教育部「新入学児童生徒の保護者へのアンケート」

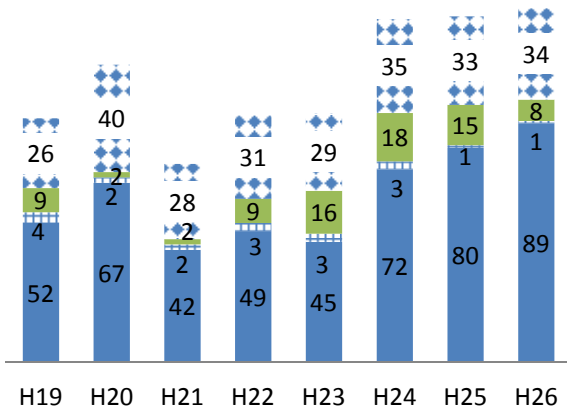
●授業が楽しいと感じている児童生徒



出典 学校教育部「児童生徒の学校生活に関する調査」

●スタッフ派遣状況

■ 少人数指導 + 教科担任制
 ■ 児童生徒活動支援 ▼ 日本語指導



出典 教育研究所資料



●近隣市の特別支援学級の状況

| | 知的障害 | 自閉症・情緒障害 | 情緒障害 | 聴覚障害 | 視覚障害 | 病弱 |
|-----|------|----------|------|------|------|----|
| 松戸市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 船橋市 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 市川市 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ |
| 柏市 | ○ | ○ | ○ | ○ | | |

○ = 設置あり 平成27年1月現在

出典 教育研究所資料

政策8

子どもたちが自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにします

2.一人ひとりの個性にあった教育が受けられます

1. 現状と課題

中学校卒業生数は、平成元年度以降、全県的に急激に減少してきましたが、松戸市を含む都市部では、平成18年度から増加に転じ、平成26年度頃から平成31年度頃まで高止まりが続きます。現在、中学校卒業生の98%が高校に進学し、高校生の学ぶ意欲や目的意識、興味・関心、進路希望等はますます多様化しており、様々な目的や学習ニーズを持った生徒が学んでいます。

今日の社会は、グローバル化、少子高齢化、高度情報化等が急速に進むとともに、非正規雇用者の増加など雇用状況の変化等が一層進んでいます。千葉県教育委員会では、平成23年度に「県立学校改革推進プラン」を策定し、「社会の変化に対応し、活力があり、生徒それぞれの豊かな学びを支え、地域のニーズにこたえる、魅力ある県立高等学校づくりを目指す」としています。

こうした中、市立松戸高校を中心に市内公立学校において、国際社会に対応できる資質・能力をもった人材や、地域の産業を支える高度で実践的な人材などの育成が求められています。新しい学習指導要領に基づいて、引き続き教育内容や指導方法の工夫改善を行うとともに、多様な児童生徒のニーズに応える、幅広い選択肢や柔軟なシステムなどを備えた教育環境を整える必要があります。

【特筆すべきニーズの変化】

- ① 子どもたちが自ら問題を発見し、解決できるような教育が望まれています(ニーズの増)
- ② 希望にあった進路が実現されることが望まれています(ニーズの増)

●松戸市立松戸高等学校の概要

創立 昭和50年
 学科と学級数 普通科 各学年8学級(学年定員320名)
 国際人文科 各学年1学級(学年定員40名)
 所在地 〒270-2221 千葉県松戸市紙敷2丁目7番地の5
 047-385-3201(代表)



●千葉県内の市立高校

H27.5.1現在

| 市名 | 学校名 | 学科 | 学級数 | 生徒数(人) |
|------|---------|---------|-----|--------|
| 千葉市 | 千葉高等学校 | 普通科 | 21 | 856 |
| | | 理数科 | 3 | 119 |
| | | 計 | 24 | 975 |
| | 稲毛高等学校 | 普通科 | 21 | 838 |
| | | 国際教養科 | 3 | 121 |
| | | 計 | 24 | 959 |
| 習志野市 | 習志野高等学校 | 普通科 | 18 | 724 |
| | | 商業科 | 6 | 239 |
| | | 計 | 24 | 963 |
| 船橋市 | 船橋高等学校 | 普通科 | 18 | 731 |
| | | 商業科 | 6 | 244 |
| | | 体育科 | 6 | 242 |
| | | 計 | 30 | 1217 |
| 松戸市 | 松戸高等学校 | 普通科 | 24 | 977 |
| | | 国際人文科 | 3 | 118 |
| | | 計 | 27 | 1095 |
| 柏市 | 柏高等学校 | 普通科 | 26 | 835 |
| | | スポーツ科学科 | 3 | 119 |
| | | 計 | 29 | 954 |
| 銚子市 | 銚子高等学校 | 普通科 | 22 | 875 |
| | | 理数科 | 2 | 85 |
| | | 計 | 24 | 960 |

出典 市立高校資料(聞き取り調査による)

●松戸市内の高等学校

公立(H27.5.1現在)、私立(H27.4.1現在)

| 区分 | 校名 | 所在地 | 生徒数(人) |
|----|--------------|------------|--------|
| 市立 | 松戸高等学校 | 紙敷2-7-5 | 1,095 |
| 県立 | 松戸高等学校 | 中和倉590-1 | 731 |
| 県立 | 小金高等学校 | 新松戸北2-14-1 | 980 |
| 県立 | 松戸国際高等学校 | 五香西5-6-1 | 1,046 |
| 県立 | 松戸南高等学校 | 紙敷1199 | 890 |
| 県立 | 松戸六実高等学校 | 六高台5-150-1 | 1,084 |
| 県立 | 松戸向陽高等学校 | 秋山682 | 844 |
| 県立 | 松戸馬橋高等学校 | 旭町1-7-1 | 902 |
| 私立 | 専修大学松戸高等学校 | 上本郷3621 | 1320 |
| 私立 | 聖徳大学附属女子高等学校 | 秋山600 | 493 |

出典 公立(千葉県教育委員会資料)、私立(HP及び聞き取り)

(平成26年度)

●松戸市立中学校卒業生の国公立高等学校等進学者

| | 人数 | 構成比率 |
|---------------|-------|------|
| 市外県立高等学校 | 1,421 | 53.3 |
| 市内県立高等学校 | 818 | 30.7 |
| 松戸市立松戸高等学校 | 323 | 12.1 |
| 国立 県外公立高等学校 | 27 | 1.0 |
| 盲・聾・特別支援学校高等部 | 69 | 2.6 |
| 高等専門学校 | 6 | 0.2 |
| 計 | 2,664 | 100 |

出典 松戸の教育

2. 施策の展開方向

児童生徒の社会的自立に向けて、実態把握と課題分析を重視するとともに、効果的な指導や創意工夫を活かした学校の多様な取り組みを支援していきます。

特別なニーズを必要とする児童生徒に対しては、持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善・克服するために、一人ひとりの教育的ニーズに応じ、適切な指導・支援を行います。

市立高校は、生徒のニーズや保護者・地域の期待に応えるためにも、学力の充実と進学実績の向上をめざした改革を進め、スポーツ・文化芸術などの面で、松戸市の強みを活かした活躍ができる生徒を育成します。

3. 施策を推進していく上での課題

学校における学習指導や諸活動の成果を維持発展させること、また希望にあった進路が実現されるよう、指導体制の充実や大学等との連携など特色ある教育活動の一層の環境整備が必要です。

【特筆すべき松戸の強み・弱み】

・児童生徒が多様な場面で、全国レベルでの活躍ができる指導体制があります(強み)

●市立松戸高校在校生の資格取得状況

単位: (人)

| 年度 | 英語検定 | | 漢字検定 | |
|------|------|-----|------|-----|
| | 2級 | 準2級 | 2級 | 準2級 |
| 23年度 | 6 | 17 | 11 | 21 |
| 24年度 | 10 | 10 | 4 | 18 |
| 25年度 | 6 | 19 | 6 | 19 |
| 26年度 | 9 | 19 | 4 | 11 |

出典 市立高校資料

●市立高校卒業生の進路状況

| 区分 | | 卒業者数(人) | 進学者 | | | | 進学率(%) | 就職者数(人) | その他(人) |
|------|---|---------|-------|-------|----------|------|--------|---------|--------|
| | | | 大学(人) | 短大(人) | 専門学校等(人) | 計(人) | | | |
| 24年度 | 男 | 183 | 108 | 3 | 39 | 150 | 82.0 | 17 | 16 |
| | 女 | 181 | 69 | 21 | 63 | 153 | 84.5 | 12 | 16 |
| | 計 | 364 | 177 | 24 | 102 | 303 | 83.2 | 29 | 32 |
| 25年度 | 男 | 197 | 103 | 0 | 56 | 159 | 80.7 | 19 | 19 |
| | 女 | 168 | 55 | 19 | 71 | 145 | 86.3 | 11 | 12 |
| | 計 | 365 | 158 | 19 | 127 | 304 | 83.5 | 30 | 31 |
| 26年度 | 男 | 200 | 129 | 2 | 45 | 176 | 88.0 | 12 | 12 |
| | 女 | 163 | 52 | 22 | 73 | 147 | 90.2 | 11 | 5 |
| | 計 | 363 | 181 | 24 | 118 | 323 | 89.1 | 23 | 17 |

出典 市立高校資料

●松戸市立松戸高等学校合唱部

平成27年度 第70回関東合唱コンクール 金賞受賞



松戸市の小中学校、高等学校ではスポーツ・文化活動において優秀な成績を収めています。

出典 市立高校資料

●国際人文科の生徒 マレーシア海外研修



出典 市立高校資料

●平成27年度東葛飾地方中学校駅伝競争大会

優勝 小金中学校



毎日新聞社提供

●平成27年度 第28回全日本マーチングコンテスト 銀賞受賞

和名ヶ谷中学校



出典 指導課資料

政策8

子どもたちが自らの将来の目標を持ち、その実現に必要な知識や経験を得られるようにします

3.安全な環境で安心した教育が受けられます

1. 現況と課題

高度情報化社会の中で生きる児童生徒にとって、情報活用能力の習得は必要不可欠なものとなっています。教員の教科指導におけるICT活用能力の向上を図るとともに、情報モラルを含めた体系的な情報教育を推進する必要があります。

また、国は平成27年度までに特定建築物の耐震化率を約100%にすることを目標としています。本市においては、平成27年度末をもって完了しました。

一方、新聞等の報道にあるように子どもたちが被害にあう事件や事故が後を絶ちません。登下校や校内生活の安全、災害時の安全確保は最重要課題です。

【特筆すべきニーズの変化】

- ① 高度情報化社会へ対応できるリテラシーが求められています(ニーズの増)
- ② 公共施設の老朽化への安全対策が求められています(ニーズの増)
- ③ 交通事故や犯罪から子どもたちを守る、地域に根付いた活動の充実が求められています(ニーズの増)

● ネットモラル教育の実施状況(平成27年度)

実施状況

| 内容 | 小学校(全44校) | 中学校(全20校) |
|-----|-----------|-----------|
| 実施 | 42校 | 20校 |
| 未実施 | 2校 | 0校 |

実施内容(複数回答有)

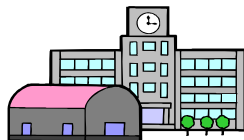
| 内容 | 小学校(全44校) | 中学校(全20校) |
|-------|-----------|-----------|
| 授業、集会 | 43校 | 5校 |
| 保護者会 | 16校 | 17校 |
| 教員研修 | 7校 | 12校 |
| その他 | 5校 | 2校 |

出典 指導課資料

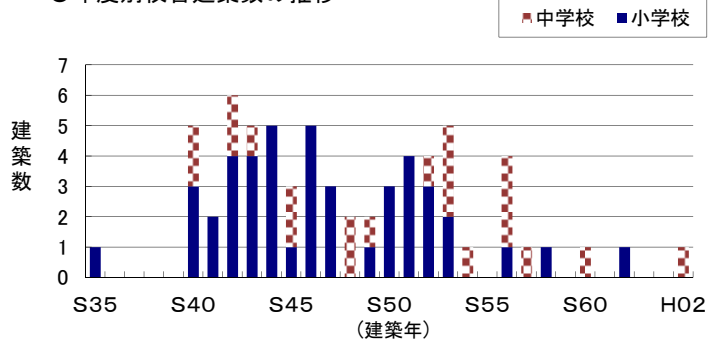
● 校舎・体育館の耐震化の推移

| | 単位(%) | | | |
|-----|-------|------|------|-----|
| | H24 | H25 | H26 | H27 |
| 小学校 | 64.6 | 76.0 | 87.6 | 100 |
| 中学校 | 77.9 | 83.2 | 89.6 | 100 |
| 合計 | 69.2 | 78.4 | 88.3 | 100 |

出典 教育施設課資料



● 年度別校舎建築数の推移



昭和40年代から昭和50年半ばまでに多く建設されている

出典 教育施設課資料

● 耐震改修工事済の校舎



出典 教育施設課資料

2. 施策の展開方向

小中学校校舎等の老朽化対策の計画を策定していきます。

保護者や地域の人たちが安心して子どもを託すことができるように、学校の危機管理能力を高めるとともに、合理的な安全管理の工夫と安全教育を推進します。

情報ネットワークやコンピュータ等の基盤整備の強みを生かし、ICTを効果的に活用した校務事務の合理化および教育の情報化を推進するとともに、学校図書館の学習情報センター機能の充実を図り、児童生徒の学びを支えます。

学校適正規模適正配置については、学校選択制の状況、国が示す1学級あたりの人数の基準、児童生徒人口の推移など総合的に判断して実行しなければならないところです。引き続き、児童生徒人口の動向を注視しつつ、必要な場合は適正な対応をしていきます。

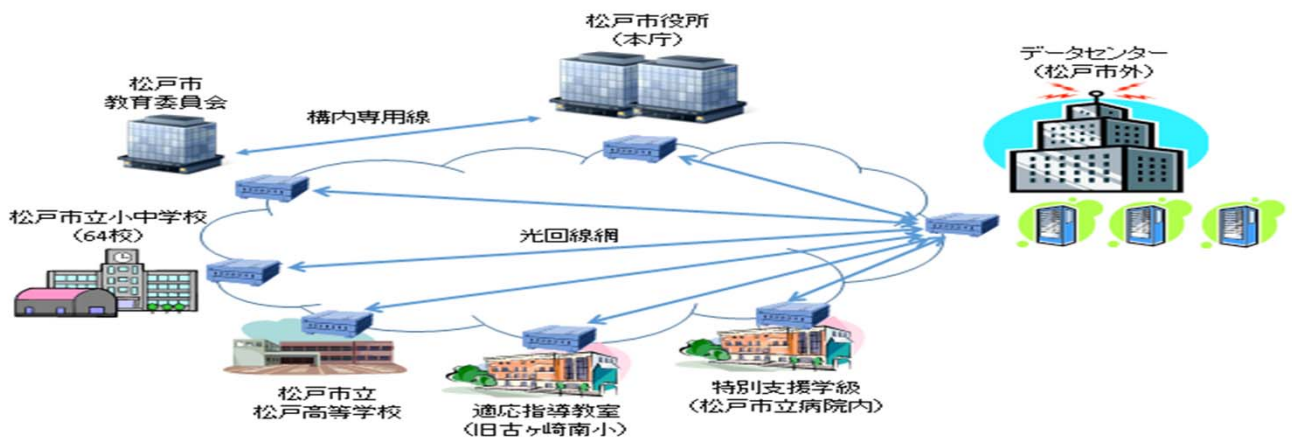
3. 施策を推進していく上での課題

校舎は昭和40年代から50年代半ばに多く建築されていることなど市内全域で老朽化が進んでおり、学校教育施設を計画的に整備するためには、様々な課題が残ります。また、保護者や地域住民の「見守り」に対する協力意識を維持継続させる学校の日常的な働きかけが必要です。常に高度化している情報技術を取り入れながら情報教育設備の安定稼働に向けた機器等の維持管理をしていく必要があります。

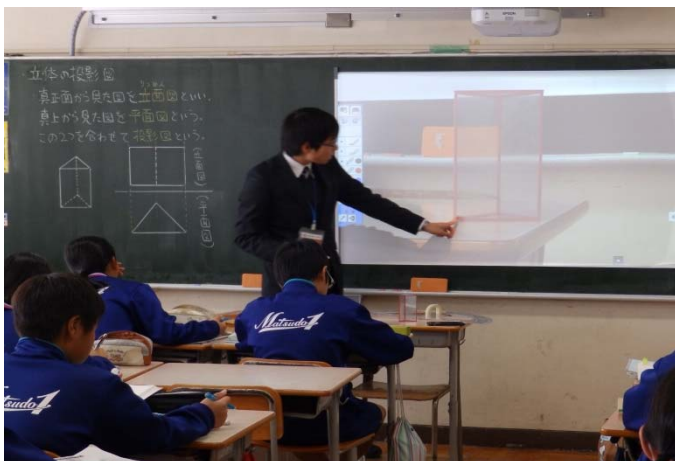
【特筆すべき松戸の強み・弱み】

- ① 学校教育施設の老朽化が進んでいます（弱み）
- ② 学校のICT環境が整備されています（強み）
- ③ 地域で子どもたちを守るという意識が高くなっています（強み）

●教育情報ネットワーク構成図

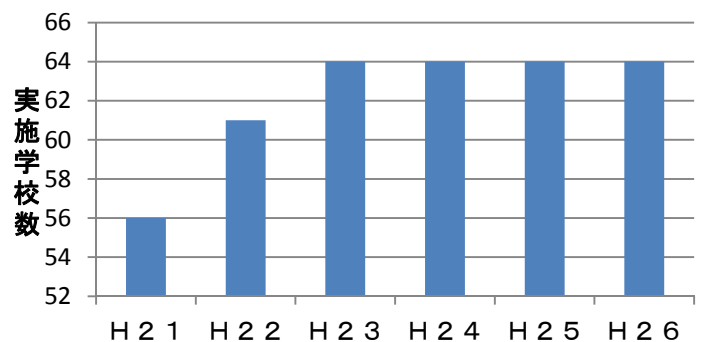


●ICTを活用した授業の様子



出典 指導課資料

●地域住民などによる見守り活動の実施状況の推移



※市立小学校44校・
市立中学校20校
合計64校

（年度）

出典 保健体育課資料

